

# 会派行政視察報告書

平成30年 4月 19日

周南市議会議長 小林 雄二 殿

周南市議会 公明党

報告者 相本 政利

平成30年4月17日(火)から4月18日(水)まで、会派公明党で下記内容の事項調査として佐賀県唐津市・熊本県八代市に出張いたしましたので、その概要を報告いたします。

－記－

1. 日 時 平成30年4月17日(火)～4月18日(水) 1泊2日  
・視察先 4月17日(火) 佐賀県唐津市  
4月18日(水) 熊本県八代市
2. 出張者 (議員) 金子優子、 遠藤伸一、 相本政利
3. 内 容  
・唐津市・・・「子育て支援情報センター」運営事業  
・八代市・・・「コミュニティバスと乗り合いタクシー」事業

※日程詳細～別紙報告書及び別添資料のとおり

## 《 熊本県八代市 》

◎視察日～4月18日（水）午前10時30分～午前12時00分

◎応対・説明者～八代市議会

八代市議会事務局長	國岡 雄幸
八代市議会事務局主任	岩崎 和平
八代市総務企画部企画政策課主事	内田 圭亮
八代市総務企画部企画政策課副主幹	秋田 大助

### 《八代市の概要》

#### 1. 位置・地勢

本市は、熊本県の南約40kmに位置し総面積は約680km<sup>2</sup>を有し全面積の約70%が山間地。交通アクセス面では、昭和55年に九州縦貫自動車道八代インターチェンジ、平成13年には南九州西回り自動車道日奈久インターチェンジが開通。平成23年3月には博多～新八代間の新幹線営業運転が始まり、九州新幹線全線が開業。さらに、海の玄関口である八代港は平成29年1月には、国の「官民連携による国際クルーズ拠点」に選定。

#### 2. 沿革

平成17年8月1日、八代市を含む1市2町3村が合併し、新八代市となる。八代地域は、地理的、歴史的な共通点を持ち、同一生活圏・経済圏にあり、これまでも一部の行政サービスでは広域での取り組みを行っていた。

### 【八代市乗り合いタクシー運行事業について】

#### 1. 公共交通を取り巻く状況

・地勢～市域面積は681km<sup>2</sup> 70%が山間地 30%が平野部

# 視 察 報 告 書

## 《 佐賀県唐津市 》

◎視察日～4月17日（火）午後1時30分～午後3時30分

◎応対・説明者～唐津市議会

唐津市議会議長	田中 秀和
唐津市議会事務局長	濱口 智
唐津市議会事務局書記	吉村 寛二
唐津市保健福祉部子育て支援課係長	岡口明日香

### 《唐津市の概要》

#### 1. 位置・地勢

本市は、佐賀県の西北部に位置し総面積は487.5km<sup>2</sup>（全県比20.0%）、農林水産業をはじめとする産業や伝統的な地域文化が育ち、優れた観光地としても発展してきた。

#### 2. 歴史と文化

唐津地方は、古来から大陸との交流が盛んに行われ、朝鮮半島や中国大陸からの様々な文化が取り入れられ全国に伝わったと考えられる。又、重要無形民俗文化財として、国指定の「唐津くんちの曳山行事」と「呼子大綱引き」をはじめ、県指定の「広瀬浮立」、市指定の「浜崎祇園祭」「天川浮立」など各地域に伝統的な祭りが引き継がれている。

#### 3. 現況

唐津市と周辺6町2村の平成の大合併により人口13万4千人の新唐津市が誕生（平成17年1月1日に8市町村及び平成18年1月1日に1村が合併）

#### 4. 市勢 （平成30年4月1日現在）

- (1) 人口 123,107人 (男57,936人 女65,171人)
- (2) 高齢化率 30.5%
- (3) 世帯数 50,507世帯
- (4) 市域面積 487.58km<sup>2</sup>

### 【唐津市子育て支援センターについて】

子育て支援センターは、子育て中の方とそのお子さん、これから出産を予定されている方、子育てに関心がある方などが気軽に利用でき、子育ての相談や交流ができる施設。

#### 1. 施設名

唐津市子育て支援センター

#### 2. 開所日

平成29年4月1日(土)

#### 3. 子育て支援センターの概要

##### (1) 所在地

唐津市東城内1-3(子育て支援センターりんく3階、4階)

(1、2階は唐津市障がい者支援センター)

##### (2) 面積

3階部分 1,127.85 m<sup>2</sup>

4階部分 1,083.58 m<sup>2</sup>      TOTAL 2,211.43 m<sup>2</sup>

##### (3) 開館時間及び休館日

3階(情報センター)      4階(キッズルーム)

(開館時間) 午前8時から午後6時      午前10時から午後5時

(休館日)      土・日・祝日      月曜日

##### (4) 業務内容

1) 3階…子育てに関する相談、援助及び講習の実施

・子育て利用者支援事業(おひさま)

・地域子育て支援拠点事業(ゆっくりくん)

- ・子育て緊急サポートセンター事業（ラビットくん）
- ・病後児保育事業（しろくまくん）

- 2) 4階…子育て家庭交流の場及び子どもの遊び場を提供
  - ・キッズルーム及び交流室の運営

(5) 実施体制

- 1) 3階…NPO法人唐津市子育て支援情報センターへ事業委託（専門の相談員、サポーターを配置）
- 2) 4階…市直営の子ども・子育て交流フロアという位置付け（市の非常勤職員等を配置）

『視察説明の概要』

- ・障がい者支援センターは平成27年度から開設。
  - ・子育て支援基本計画を平成28年度に作成し、平成29年度から「子育て支援センター」を開所。
  - ・これまで子育て支援は市役所内で進めていたが、3階に移転し拡張した。又、4階は当初からキッズ広場にする予定だった。
  - ・施設整備費は、平成28年度の本体工事費＝248,006千円を含めて総事業費は294,418千円（平成27・28年度の2ヶ年事業）
  - ・平成16年6月に元気再生委員会（子育て支援）を開始し、平成17年7月NPO法人に。
  - ・民間と行政の一体化を考慮し、平成16年10月から窓口一本化。
  - ・支援の原点は・・・“親を元気にしたい”
  - ・利用者支援事業（国が始めた）
- 当初は、大手口センタービル3Fサテライトに開設（1Fバスセンターの利点有り）有償ボランティアで行い現在も開設。
- ・りんく3階はママカフェに（お母さんがほっとできるように）
  - ・事業説明

- ① 子育て緊急サポートセンター事業（ラビットくん）

## ② 病後児保育事業（しろくまくん）

### ・中学校子育てサロン

家庭科の授業時間を利用し、中学校3年生と交流。

2017年度は中学生1400人、親子1530人が交流した。  
県の補助金があり、唐津市独自事業に。

今後は、佐賀県内6校の私立中学に展開していく。

### 【所感】

人口規模、市域面積が本市に類似しており、平成の大合併による市歴も似ている唐津市の子育て支援の状況を伺った。

早くから官民協同での子育て支援事業を実施されており、平成29年4月から新規に当センターで事業を開始されていた。

行政とNPO法人の事業のすみ分けがしっかりされ、病後児保育、子育てサポート事業等は本市と同様に積極的に取り組まれていた。

中学校子育てサロンは、本市にはない事業で非常に参考になった。

途中で、事業費を尋ねてみると、唐津市の競艇事業は盛況で毎年3億円から5億円の一般会計への繰り入れがある。と伺う。地方自治体としては国や県の補助金を研究していこことも大事だが、市の財政状況とのバランスを図ることが重要だと感じた。

## 《 熊本県八代市 》

◎視察日～4月18日（水）午前10時30分～午前12時00分

◎応対・説明者～八代市議会

八代市議会事務局長	國岡 雄幸
八代市議会事務局主任	岩崎 和平
八代市総務企画部企画政策課主事	内田 圭亮
八代市総務企画部企画政策課副主幹	秋田 大助

### 《八代市の概要》

#### 1. 位置・地勢

本市は、熊本県の南約40kmに位置し総面積は約680km<sup>2</sup>を有し全面積の約70%が山間地。交通アクセス面では、昭和55年に九州縦貫自動車道八代インターチェンジ、平成13年には南九州西回り自動車道日奈久インターチェンジが開通。平成23年3月には博多～新八代間の新幹線営業運転が始まり、九州新幹線全線が開業。さらに、海の玄関口である八代港は平成29年1月には、国の「官民連携による国際クルーズ拠点」に選定。

#### 2. 沿革

平成17年8月1日、八代市を含む1市2町3村が合併し、新八代市となる。八代地域は、地理的、歴史的な共通点を持ち、同一生活圈・経済圏にあり、これまでも一部の行政サービスでは広域での取り組みを行っていた。

### 【八代市乗り合いタクシー運行事業について】

#### 1. 公共交通を取り巻く状況

・地勢～市域面積は681km<sup>2</sup> 70%が山間地 30%が平野部

- ・土地利用～国道3号を境に東部が山林、西部には広大な平野が広がる。
- ・人口特性～平野部に広く分布し、市中心部に高い人口集積。
- ・高齢化率～旧3村の高齢化率が高い。特に旧坂本村は50%超え。
- ・高齢化率の分布～平野部は概ね40%未満。
- ・主要施設の分布
  - ・大型商業施設～県道14号線や八代港線の沿線に立地
  - ・医療施設～中心部に多くの医療施設が集中
  - ・教育施設（高校以上）～多くは旧八代市内に立地
  - ・公共公益施設～本庁、旧町村ごとに支所設置  
小学校ごとに公民館

## 2. 八代市乗合タクシー運行事業

- ・平成22年10月再編前のバス路線は36路線  
利用者の減少で不採算・・・市補助金は1億9700万円/年

- ・平成22年10月再編

- ① バス路線再編                      ②市街地循環バス運行開始
- ② 乗合タクシー運行開始

	平成23年度	⇒	平成28年度
路線バス財政負担額	149百万円		195百万円
市財政負担額	171百万円		219百万円
バス利用者数	646千人		556千人

- ・平成21年5月「八代市地域公共交通会議」を設置。  
(平成18年から利用者アンケート、乗合タクシー社会実験を。)

## 3. 公共交通の課題と取り組み

- ・平成26年度～八代市地域公共交通網形成計画の作成
- ・平成27年度～地域公共交通再編推進事業（再編計画策定事業）



- ・平成28年度～再編実施計画の認定申請に向け国、事業者と調整
- ・平成29年度～交通不便地域の指定申請

#### 4. 八代市地域公共交通再編実施計画

・・・・平成29年7月12日認定

##### ○運行内容

##### ① 運賃

エリア制運賃（150円～650円）から、150円均一に。

##### ② 経費

入札による業務委託から、運行実績に応じた補助金交付に。

##### ③ 路線

13路線から17路線に。

##### 【所感】

人口規模、市域面積が本市に類似しており、平成の大合併による市歴も似ている八代市の生活交通事業の状況を伺った。

人口12万8千人の内、約12万人が平野部に居住されていると伺い比較的取り組みやすい地域特性であると感じた。質疑の途中でも立地適正化計画を作成する予定はない。とも伺い交通網を作成していく上では合併当初から非常に好条件にある。

平成21年にこれまでのアンケート調査や実証実験を基に地域公共交通会議を設立しバス路線の再編、市街地循環バス運行開始、乗合タクシー運行を開始され、平成27年には公共交通再編を計画実施され認定・運行開始されている。市民の声を伺っている行政が中心になり、交通事業者との連携を密に事業を進めておられ模範的な事業体系にあると感じた。事業費についても国の補助金制度を積極的に利用されているようで今後は研究の必要性を感じた。

以上

## 周南市議会公明党 会派視察報告書

報告者 遠藤伸一

H30.4/17～4/18

とき 平成30年4月17日(火)午後1時30分～

ところ 唐津市子育て支援センター

【調査事項】 唐津市子育て支援センターについて

### 【所感】

平成16年6月に子育ての不安や相談などの情報ニーズに対応する窓口をひとつにし、(※ネウボラ、周南市は平成28年6月開設)子育て家庭を支援しようと官民協働で、設立・運営を開始。翌、平成17年にはNPO法人格を取得されている。行政と民間との懸け橋となるよう365日電話相談対応。お母さんの生の声を大切にし、親を元気にしたいという支援の原点から平成18年より、子育て緊急サポートセンター「ラビットくん」・病後児保育「しろくまくん」の活動を開始。さらには食育講座(地域との連携)、リフレッシュ講座(アクアスイミング)など幅広い活動を展開されている。また当該施設4階部分には全天候型屋内キッズスペースが整備され視察当日も多く親子連れで賑わっていた。広さも相当ある印象だったが休日などには部屋がいっぱいになるとのことで、子どもと遊ぶ場所のニーズはやはり多く、本市の検討課題のひとつであると思う。

特筆すべき点は、中学校子育てサロン事業が子どもたちの情操教育に相当な影響がある取り組みであること。地域の乳幼児親子が中学校で中学生と交流し、乳幼児と触れ合うことによる心境の変化を数値化し、「見える化」することによって、本事業の有効性が証明できている。この中学校子育てサロン事業が市の教育委員会の独自事業として発展したとのことで、団体職員さんの並々ならぬ努力・情熱なくしてはあり得なかったことだと感じた。この事業を通して、人づくりがまちづくりへ、地域コミュニティ構築へとつながっていくような具体的なイメージを持つことができた。FM放送や、SNSなどを通じてこれらの事業についてあらゆる情報発信をしておられる。

中学校に対する子育てサロンの情操教育の実施の検討や、全天候型の子どもの遊び場の確保などをハード、ソフト含め、本市の子育て支援に関する新たなニーズがないか、調査、研究して参りたい。

## 周南市議会公明党 会派視察報告書

報告者 遠藤伸一

H30.4/17～4/18

とき 平成30年4月18日(水) 午前10時30分～

ところ 八代市役所

【調査事項】 八代市乗合タクシー運行事業について

### 【所感】

八代市は、熊本市の南約40kmに位置し、市域は東西約50km、南北約30kmと東西に長い形状。市域面積は約681km<sup>2</sup>で本市よりも広く、日奈久断層によって山間部と平野部に区分され、全面積の約70%が山間地、約30%が平野部という地勢も類似している。人口特性としては八代市の全人口128,845人のうち平野部に約12万人が居住し、山間部には8,000人とのことである。1市2町3村が合併し市全体の高齢化率は32.6%、旧坂本村では54.5%を超えている。

平成22年度からバス路線の再編を行い1億9,700万円の財政負担がかかることになった。と同時期に乗合タクシー事業を導入し代替交通機関として運行させている。路線バスは初乗り150円、上限200円、乗合タクシーは150円均一で予約制。

本市との違いとして八代市は立地適正化計画には着手していないことである。既に市街地と中山間地域の居住分布が顕著に分かれているためと思われる。本市のコンパクト+ネットワークのまちづくりを目指す計画が「20年後のあるべき姿」とされており、都市再編計画と連動した公共交通の編成が思うように進んでいないと感じる要因の一つではないか。地域主体、地域に任せるのではなく、やはり行政主導で、まずは全体的な方向性を示すべきであると思う。大枠の制度を設定した後、地域ごとのニーズに関しては調整していく手法が本市のスムーズなコミュニティ交通導入の大きなポイントになると感じた。

日時) H30. 4. 17 (火) 13時30分～15時30分

場所) 唐津市子育て情報支援センター

視察項目) 子育て情報支援センターについて

【内容・所感】

唐津市の子育て支援センターは、NPO法人に業務委託されており、直営での本市の子育て世代包括支援センターとは異なる面も多い。今年で14年目となる実績からか様々な取り組みがされていることに驚かされた。電話相談は、365日対応されていたり、病後児保育やファミサポも施設内にあり、医師会との連携も進んでいる。唐津市のキャラクターを使っでの活動や中学校での子育てサロン、スイミングクラブとの連携など、代表者の「子育てする親を元気にしたい」との思いと発想、行動力で子育て支援が包括的に行われていた。乳幼児への支援は本市が充実している感があったが、唐津市で取り組まれていることの一つでも参考に本市でも実施できればと感じた。子育て支援が、それだけにとどまらず地域の発展につながることを実感できた。

日時) H30. 4. 18 (水) 10時30分～12時00分

場所) 八代市役所

視察項目) コミュニティバス、乗合タクシー事業について

【内容・所感】

どの自治体も、高齢化社会を迎えるにあたって交通手段の確保は最重要課題だが、八代市ではH22年度のバス路線の市からの補助金が1億9700万円となったことから、地域公共交通会議を設置し、課題を明確にし取り組んでこられた。本市ももっと行政主導で、力を入公共交通網の再編やコミュニティ交通に力を入れるべきと感じた。

八代市では、路線バス、乗合タクシー、乗り継ぎに関すること、公共交通不便地域など一体的に問題点などを把握し、きめ細かく住民ニーズに応えようとされていた。平成29年10月から公共交通の再編後、若干ではあるが市の持ち出す補助金が減少したとのこと。本市では、行政、公共交通機関、市民が一体となって計画を進める仕組み作りが必要と感じた。